



# 進路だより

令和3年度7月号



島根県立  
島根中央高等学校  
Shimane chuo high school  
発行：進路指導部

7月後半からは夏休みが始まり、補習がスタートします。夏休みに入る前にオープンキャンパスの日程を確認したり、夏休みの1日の勉強スケジュールを決めたりするなど計画を立てて、夏休みを迎えましょう。

3年生はいよいよ就職活動や受験勉強に本腰を入れる時期になりました。夏は受験の天王山！この夏、大いに力をつけてぐっと合格に近づこう！

## 報告 進路ガイダンス (2年生)

6月15日、2年生の進路ガイダンスを実施しました。今回の進路ガイダンスでは、進路希望に沿ってそれぞれ専門講師から話を聞きました。

就職志望者は、働くことの意義や高校生の就職活動の最新情報などの話を聞き、面接指導を受けました。公務員志望者は、公務員の仕事の説明や職種の紹介を聞き、公務員試験に向けての対策講座を受講しました。進学志望者については、事前に実施したアンケートにより自分が興味・関心を持った学校の話を通じて、またはオンラインで聞きました。

生徒からは「各大学の特色が理解できた。志望大学の決定にはよく調べることが大切だと思った。」や「そろそろギアを入れて、勉強しなければまずいと思った。」などの感想を聞きました。



教室、体育館、会議室に分かれ、直接、またはiPadなどを使いオンラインで講師の話を聞きました。

学年	日付	行事
1年	7月 9日	ベネッセ総合学力テスト
	8月21日	全統記述模試(希望者)
2年	7月 9日	ベネッセ総合学力テスト(人文・自然)
	8月21日	基礎学力テスト(地域) 全統記述模試(希望者)
3年	7月 9日	基礎学力テスト(地域)
	7月 9・12日	進研記述模試(人文・自然)
	8月 3～6日	夏期特別補習
	8月 6日	大学別模試①(希望者)
	8月 6・7日	全統マーク模試(希望者)
共通	8月20・21日	全統記述模試(希望者)
	7月21日	終業式
	7月26～30日	夏期補習
	8月23日	始業式

## 報告 進路別集会 (1年生)

6月22日、1年生の進路集會を外部講師と各教室をオンラインでつなぎ実施しました。講演では、進路選択についてと、目標設定の方法、学校で定期的にも実施される模試の活用について聞きました。

ベネッセの分析によると、1年7月模試で偏差値が50～54.9の中四国エリアの高校生を対象に調査したところ、1年11月の模試から成績の差が出始めるというデータが紹介され、1年生の“今”こそ、実力が伸びるか否かの分岐点であることを知りました。

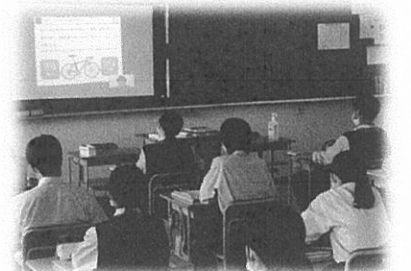
高校卒業後の進路選択は、高校入試と違って、数多くある選択肢から自分の意思で「志望」を固め、競争の激しい試験を勝ち抜くための「実力」をつけなければなりません。

1年生の今、しっかりとした学習習慣をつけましょう。

### データから見る 成績上昇のためのアドバイス

- 平日の学習時間は絶対量が必要！（最低2時間）
- やるべきことに自分で優先順位を決めて学習する！
- 「宿題+α」に取り組むこと！
- 暗記ではなく理解する学習を意識する！

〔株〕ベネッセ・ホールディングス 1年 進路集會より〕



## 報告 小論文模試（3年生）

学校推薦型選抜・総合型選抜試験、就職試験のほとんどにおいて作文や小論文が課されます。6月16日、3年生の小論文模試を実施しました。外部講師による講座をビデオ視聴しながら、3月に受講した小論文の書き方をふり返り、800字の小論文を書くことに挑戦しました。

3月の講座では「小論文」と「作文」との違いを確認し、大学入試や就職試験を想定した300字の自己PR文を書きましたが、今回は「具体的な志望学部（または職種）と志望理由、抱負」をテーマとしました。原稿用紙に書く前に、大学や企業の人に入試・入社試験で読まれること、読み手が知りたいことは何かをしっかりと押さえておくこと、また、文章を構成するときには、小論文の組み立てのプロセスに従って、自分の思いと行動（経験）をセットで伝えることなどを教わりました。

書いた小論文は、講師の先生に添削をいただき返却し、ふり返りを行う予定です。



### 【小論文と作文の違い】

小論文：根拠や理由を挙げて、  
自分の意見や考えを書く

作文：思ったことをそのまま書く

### 【小論文の組み立てプロセス】

- 1) 論点を設定し主張を決める
- 2) 主張の根拠となる材料（理由）を集めて書き出す
- 3) 文章を組み立てる（構成）
  - ①序論：アプローチ  
（導入部分、全体のまとめ）
  - ②本論：具体例（1～2つくらい）
  - ③結論：自分の考え、意見を述べる

## 報告 島根県立大学×島根中央高校連携企画

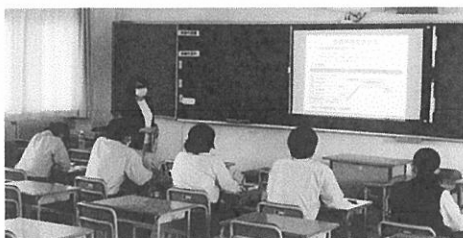
### 看護を学び、 地域で働く魅力を再発見するセミナー

6月8日、地元で働く看護職の方と島根県立大学による「地域で働く魅力」を再発見するセミナーを実施し、3年生の希望者5人が参加しました。

はじめに、川本町にある社会医療法人仁寿会加藤病院の看護師の方から、看護職を志したきっかけや地域の病院で働くやりがい、職員の福利厚生、研修・教育体制、子育て・介護の支援など看護師として働く魅力について聞きました。

続いて、島根県立大学看護栄養学部の先生から「大学で看護を学ぶこと」について講演がありました。3年間の学びのカリキュラムが決まっている看護専門学校に対し、4年制大学は科目選択により自分で履修計画を立て主体的に学ぶことや、地域でのフィールドワークや海外研修、サークルやボランティア活動など、様々な大学生活から学ぶことで、医療を受ける側の価値観の多様化や、進歩する医療現場に対応する看護職の育成が図られていること、また、島根県立大学看護栄養学部の入試や奨学金制度の説明がありました。

医療現場の現状や大学の看護学の講話を聞くことを通して、地域医療や看護師の仕事についての理解を深めることができました。



### 大学生の海外体験を聞いてみよう 「バーチャル国際交流会」

島根県立大学の学生が高校生にオンラインを通して自らの海外体験を語る「バーチャル国際交流会」の第2回が6月25日に開催されました。



今回のテーマは「海外ボランティア」で、島根県立大学の学生3人が、日本での「ラオスに絵本を贈る」ボランティア活動の経験から、自分たちが贈った絵本の状況や活用のされ方について、現地の図書館を訪問したり、子ども達と交流したりしながら調査を行った体験談を聞きました。

東南アジアの内陸部にある多民族国家ラオスでは、学校や教員の数が不足、都市部と地方における教育格差など、子どもたちは厳しい学習環境にいます。子ども向けの絵本も少ないため、海外からの支援で届いた絵本を嬉しそうに手にする子たちの笑顔や、貧しい地域でも人々がお互いを思いやりながら暮らすラオスの人たちの姿に精神的な「豊かさ」を感じたそうです。

大学生のプレゼンテーションを聞き、本校から参加した3人の生徒も一緒に「豊かさ」について考える機会になりました。